

福岡女子大学附属図書館ニュース

図書館、美術館、ラーニング・コモنزの情報をお届けします

Fukuoka Women's University Library News

2026.3

34



Contents

- 1 表紙
- 2 「わかりやすさ」に抗う(渡邊 俊)
- 3 企画展示
- 4 ラーニング・コモنزNews
- 5 TOPICS
教員著作コーナーより
- 6 学生委員の活動紹介
図書館部門の活動紹介
- 7 美術館部門の活動紹介
- 8 10周年を超えて、初心に立ち返るLanguage Cafe(金光 真美)
附属図書館の1年

読売新聞に本学図書館の特集記事が掲載されました! 詳しくは5ページ「TOPICS」をご覧ください。
取材にご協力いただいた学生と一緒に図書館内で記念撮影をした様子。
(写真左から)国際教養学科4年 盧美妍さん、国際教養学科3年 グエンチュック・ニャット・リンさん



「わかりやすさ」に抗う

附属図書館長(国際教養学科 教授) 渡邊 俊

とくに近年の大学には、「わかりやすさ」という妖怪がウロウロしているように思えてならない。この「わかりやすさ」の氾濫は、どうもおさえようがない。

たとえば、授業の「わかりやすさ」である。なんだか、わかりやすい授業が求められている(ような気がする)。この「わかりやすさ」が、難しいということが理解できる「わかりやすさ」であればまだしも、難しいことがやさしく理解できる「わかりやすさ」を意味するのだとしたら、そこには大きな落とし穴があると言わざるを得ない。

そもそも大学での学びに、わかりやすい答えなど、ほとんど無いに等しい。私の専門分野である歴史学にひきつけて考えてみよう。「現存するAという史料を解釈すると、〇〇が△△に変化したことがわかります」という説明があったとする。一見、わかりやすいが、Aという史料には相当なバイアスがかかっているかもしれないし、Bという史料では異なる事が書かれているかもしれない。また、もっと情報を集めて大きな視野で見た時、実は「〇〇が△△に変化した」とは言えない可能性が生じるかもしれない。こんなことを考えだすと、とたんに歴史がわからなくなるのである。だから、私のゼミでは「わかりませんね」を連発してしまう。仮に、わかりやすく歴史を説明(叙述)しようとするれば、膨大な過去の情報を削ぎ落としていることには目もくれず、とにかく単純化(≒単線化)せねばならない。

大学での学びに限らず、自分自身のことを説明することすら難しい。「私って、〇〇〇な人間なんですよ」とは言うものの、実は自分という存在は、いろんな経験が積み重ねられて出来上がっているはずである。無意識のうちに影響を受けてきたこともあるだろう。それら自身を構成しているはずの無数のピースをすべて目の前に並べることなど出来ないし、ましてやそれらピースをすべて組み合わせる自己像を築くことなど不可能である。結局のところ、幾つかの組み合わせやすいピースだけを拾い集めて、自分という存在を程ほどに説明することくらいしか私たちにはできない。人間なんて単純な存在ではないと頭ではわかっている、単純化してしまうのである。

あまりにも膨大で複雑な情報を前にすると、人間の情報処理能力が追いつかなくなって苦しくなり、結果、スッキリとした「わかりやすさ」を追い求めてしまう単純化が生じるのではないか。これは、なかなか厄介な問題である。

この現象の最たるものは、インターネット世界だろう。パソコンやスマホでインターネットの世界にアクセスすれば、大抵の情報が手に入る。近年は、チャットGPTという優れものまでが登場しており、ネット上の膨大な情報を取捨選択してすぐに求める回答を提示してくれると聞く。楽ちんなこと、この上ない。この「わかりやすさ」の誘惑に勝つことは、現代社会にあっては難しい。

ただ、ここに大きな落とし穴がある。「わかりやすさ」を手にしたとたん、それに満足してしまって、この「わかりやすさ」に安住してしまいがちになることである。よくよく考えれば、このスッキリとした「わかりやすさ」になるまでに削ぎ落とされてしまった多種多様な情報が、本来はあったはずである。その情報のなかには、新たな考えを生む呼び水となるようなヒントがあったかもしれない。だが、「わかりやすさ」の居心地の良さは、そんな面倒なことには目を向けさせない。結果、考えも視野も凝り固まったものになってしまう。そんな落とし穴があるような気がしてならない。

それでは、こうした「わかりやすさ」に抗うためには、どうしたらよいのだろうか。さしあたっての処方箋は、問い続け、そして考え続けることしかなさそうだ。図書館は、「わかりやすさ」という妖怪に抗う砦であってほしい。そのように思うのである。

企画展示

図書館企画展示 「21世紀の100冊」

昨年 6 月より図書館 1 階 BBC コーナーそばにて、企画展示「21 世紀の 100 冊」を開催しています。米国の新聞 *The New York Times*、英国の新聞 *The Guardian* に掲載された「The 100 Best Books of the 21st Century (21 世紀最高の本 100 冊)」のうち、本学図書館が所蔵するものを紹介しています。

21 世紀最初の四半世紀を代表する本のリストは、世界的に大きな反響を呼びました。展示コーナーには、各紙の紹介した 100 冊のリストも展示されています。21 世紀を代表する世界的評価の高い本の数々をぜひ手にとってみませんか？図書館にお越し

の際はぜひ展示コーナーにお立ち寄りください。



図書館企画展示 「アメリカ文学の扉をたたく」

本学美術館にて昨年 6 月から 9 月の期間に開催された美術館コレクション展「許山孝一 カリフォルニアの丘」にちなみ、本学蔵書の中からアメリカの歴史や文化、文学等につながる書籍を集め、紹介しています。展示ポスターやポップ等、図書館で働く



学生スタッフの皆さんにご協力いただき、手作り感あふれる展示コーナーが出来上がりました。

1920 年代より半世紀以上アメリカで暮らし、創作活動を続けた故 許山

孝一氏の作品には、アメリカの文化や思想の影響が色濃く映し出されています。許山氏の作品の一部は時期により、コレクション展終了後も常設展示として本学美術館に展示されています。本学にお越しの際は、美術館内の許山孝一作品と図書館内の本企画展示をぜひご覧ください。

(※)美術館コレクション展の関連トークイベントの様子が、p.4「ラーニング・コミュニティ NEWS」にて紹介されています。



図書館企画展示 「はじめての俳句づくり～五・七・五の世界へ～」



昨年 12 月に本学講義棟にて、俳人の夏井いつきさんの句会ライブが開催されました。「俳句の種まき」を信条とし、全国で俳句の楽しさを伝え続ける夏井さんの句会ライブは、本学学生や教職員、学外者等 150 名を超える方々にご参加いただき、終始笑いの絶えない盛会となりました。

夏井いつきさんの句会ライブ開催に

ちなみ、図書館 1 階ゲートそばにて、企画展示「はじめての俳句づくり～五・七・五の世界へ～」を開催しています。俳句初心者に向けて書かれた夏井さんの著書他、俳句につながる書籍を集めて紹介しています。展示コーナーには、昨年 12 月に本学にお越しいただいた際にいただいた夏井いつきさんのサインもあわせて展示しています。図書館にお越しの際はぜひご覧ください。



美術館 第9回春の企画展 「松室加世子」展

2025 年 4 月 19 日から 6 月 20 日の期間、本学美術館にて、院展を中心に活躍された故 松室加世子氏の回顧展が開催されました。



ご遺族から本学美術館に寄贈された松室氏の作品のうち、桃山時代のキリシタンをテーマとする歴史画やヨーロッパの風景等、繊細な筆致で描かれた 30 点程の作品が展示され、多くの

方々に鑑賞いただきました。

岩絵具や墨、金箔等が充分に使用された作品の数々は、繊細さの中に静かな迫力が感じられ、観る者の心を強く惹きつけます。松室氏の作品の一部は時期により、企画展終了後も常設展示として本学美術館に展示されています。本学にお越しの際は、ぜひ本学美術館にお立ち寄りください。



美術館 秋の特別展 ナイジェル・ストット ネイチャーフォト展「Nature Around Us」

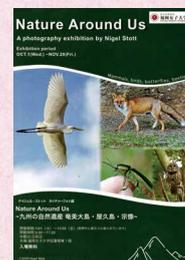
2025 年 10 月 1 日から 11 月 28 日の期間、本学美術館にて言語教育センターのストット教授による写真展「Nature Around Us ～九州の自然遺産 奄美大島・屋久島・宗像～」が開催されました。



自然を愛するストット教授が、九州の雄大な自然の中を散策して撮りためた写真の数々が展示された本企画展では、自然の中で野生

生物と出会った経験等を自由に書き込んで共有することのできる参加型のコーナーも設けられました。

身近な自然への関心を高めることを主な目的とする本展示には、自然の中で出会ったキツネやシカ、フクロウ等の動物達の可愛らしい表情を切り取った作品も多数展示されました。賑やかで楽しい展示空間を、多くの方々が笑顔で散策する姿がとても印象的でした。



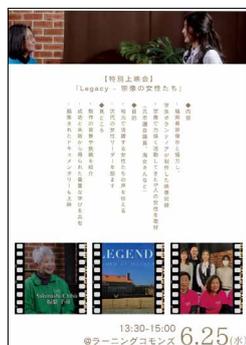


図書館1階にある本学の新たな学びの場「ラーニング・コモンズ」をご存知ですか。

複数の学生や教員がつどい、主体的に学習活動を行うことのできる「ラーニング・コモンズ」は、様々なテーマについてのディスカッション、プレゼンテーションの練習、また語学の練習など、幅広い学習スタイルを可能にする空間です。机や椅子のレイアウトを変更し、ミニ講演会や公開講座等、小規模なイベントの開催も可能です。

「ラーニング・コモンズNews」第10回目の今回は、いくつかの活用事例を紹介し、このような事例を参考にいただき、皆さんそれぞれの学習スタイルを創造してみてください。

自主制作ドキュメンタリー『Legacy — 宗像の女性たち』の上映イベントが開催されました



本学学生と教員が宗像市と連携して制作した自主制作ドキュメンタリー「Legacy — 宗像の女性たち」の上映イベントを開催しました。宗像市在住の本学教員が、宗像の住民や自然への感謝の気持ちを表したいとの思いで発案し、制作された本ドキュメンタリー映像には、元市議会議員や海女、食育推進団体スタッフ等の様々な分野で活躍した経験をもつ宗像市の女性達が、これまでの活動を振り返り、インタビュアー役の本学学生に優しく語りかける様子が映されています。

ドキュメンタリー映像の上映前には、本企画の発案者である言語教育センターのガラチャー講師と参加学生(国際教養学科 江藤由美子さん)が、宗像市主催の「大学生の力によるまちの課題解決プロジェクト」に応募し、本ドキュメンタリー映像を制作した背景や企画プロセス、活動から得られた学び等について発表を行いました。その後の上映時間中、「宗像の女性たち」の語る次世代の女性たちへのメッセージにじっと耳をすませる学生たちの姿がとても印象に残りました。



「ZINEを作ろうワークショップ」を開催しました

昨年度の図書館部門学生委員(国際教養学科 塚本日向子さん)の発案により「ZINEを作ろうワークショップ」を開催しました。「ZINE」(個人やグループで、多様なテーマや手法を用いて自由に制作した冊子や出版物等)の魅力を広めたいとの思いで昨年度に引き続き開催された本イベントでは、企画した学生委員よりZINEの作り方について簡単な説明を受けた後、参加者それぞれが思い思いのテーマでZINEを制作しました。

旅行や食べ歩きの記事、好きな映画の魅力をもとめたものなど、参加者が制作したZINEには、参加者それぞれの個性や嗜好が詰め込まれています。色画用紙やマスキングテープ、写真の切り抜き等を使い、時間をかけて制作されたZINEの一部が図書館1階ゲートそばに展示されていますので、ぜひ一度ご覧ください。



講演会「許山孝一の生きたアメリカ」を開催しました



美術館コレクション展「許山孝一 カリフォルニアの丘」の関連イベントとして、国際教養学科 長岡真吾教授によるトークイベント「許山孝一の生きたアメリカ」を開催しました。戦前・戦後の激動の時代に半世紀以上アメリカで暮らし、画家、デザイナーとして活動を続けた許山孝一氏(1900-84)の作品には、アメリカの文化や思想の影響が色濃く映しだされています。許山氏の人生や創作活動を「アメリカ」のキーワードで読み解く本トークイベントの終了後、その流れで美術館コレクション展に足を運び、展示作品をゆっくりと鑑賞する参加者の姿が多数見られました。

美術館には、本学に寄贈された70点を超える許山氏の作品が収蔵されています。コレクション展終了後も常設展示として、学内の様々な場所で許山氏の作品が展示されていますので、本学にお越しの際はぜひご覧ください。





2025年11月27日の読売新聞朝刊の「知の館」(全国の大学図書館を特集する企画)に、本学図書館の特集記事が掲載されました!

2日間にわたり読売新聞の記者による取材を受けました

全国の大学図書館を取材し、その魅力を伝える読売新聞の特集企画「知の館」に本学図書館の特集記事が掲載されることが決まった後、11月初旬の2日間にわたり、読売新聞の記者による取材、専属カメラマンによる館内撮影等が行われました。

特集企画「知の館」は、紙面1ページの全面を使う分量の大きな記事であるため、取材日の前に担当記者と図書館職員とで綿密な打ち合わせを行い、取材に要する事前の情報共有や取材対象者の選定等を行いました。また取材が終わった後も記事掲載までの間、メールや電話等で蜜に連絡を取り合い、記事掲載に要する情報の精査、補足情報の共有等を行いました。

取材当日は、同じ場所で黙々と何十枚も撮影する専属カメラマンの姿や、柔らかい物腰で取材対象の教員や学生に語りかけ、必要な情報を的確に引き出す担当記者の姿等、普段なかなか目にすることのない報道機関の方々のプロフェッショナルな仕事ぶりに大変感銘を受けました。取材にご協力いただいた皆様にも、この場を借りて心より感謝申し上げます。



図書館内で新聞紙面と一緒に記念撮影をした様子
(写真左から) 国際教養学科 4年 盧美妍さん、国際教養学科 3年 グエンチュック・ニヤット・リンさん

本学学生も取材対応を行いました

人間環境科学研究科 博士前期課程 1年の森田千絵さん、国際教養学科 4年の盧美妍さんにも取材にご協力いただきました。図書館内で取材を受ける際、始めは少し緊張の面持ちで対応しているように見受けられましたが、物腰の柔らかい記者の方と話すうちに徐々に緊張もほぐれ、記者から投げかけられる様々な質問に、学生ならではの視点でしっかりとした回答を行う姿がとても印象的でした。

栄養科学に関する研究を行っている森田さんは「村上祥子料理研究資料文庫」について、図書館で学生スタッフとして働いている盧さんは普段どのように図書館を利用しているかについて取材を受けた他、館内での写真撮影にも被写体として参加しました。お二人のご協力のお陰で特集記事の内容に厚みが生まれたように感じられます。取材にご協力いただき、本当にありがとうございました。



(写真左から) 人間環境科学研究科 博士前期課程 1年 森田千絵さん、国際教養学科 4年 盧美妍さん



「知の館」はオンラインでも閲覧可能です。左記 QR コードよりアクセスのうえ、ぜひご覧ください。

教員著作コーナーより



今年度も、本学の先生方が執筆や編集等にたずさわった図書や雑誌をご寄贈いただきました。皆さんもぜひ手に取ってみてください。

石神圭子 准教授

インフォーマルな政治の探究：政治学はどのような政治を語りうるか

松尾隆佑, 他 (編著)

9784910590271 吉田書店 2025年3月

大久保順子 教授

小城鍋島文庫の古典籍たち：書物は語る

中尾友香梨, 白石良夫, 二宮愛理 (編)

9784867660850 文学通信 2025年3月

太田雅規 教授、梅木陽子 准教授、佐久間理英 准教授、南里明子 准教授

初めての栄養学研究論文：人には聞けない要点とコツ 第2版

上西一弘, 他 (編)

9784804115030 第一出版 2025年9月

片桐義範 教授

これだけはおさえたい! 臨床栄養学テキスト

保坂利男, 新井英一 (編)

9784524228522 南江堂 2025年3月

片桐義範 教授

臨床栄養学 改訂第4版

中村丁次, 他 (編)

9784524204199 南江堂 2025年3月

金希京 准教授

慣用表現の産出および学習に影響する諸要因

金希京

9791194781035 wemakebook 2025年3月

金希京 准教授

Lovely Korean 韓国語 1Beginner 初級

金希京

9791169020985 Jessebook 2025年3月

都路沙央里 講師、向井剛 学長

英国の書物出版文化史：著者、出版業者、読者との関係から

都地沙央里 (編著)

ISBN 9784875718987 開文社出版 2025年10月

濱田俊 教授

臨床医学：人体の構造と機能及び疾病の成り立ち (健康・栄養科学シリーズ) 改訂第2版

羽生大記, 河手久弥 (編)

ISBN 9784524206636 南江堂 2024年11月

渡邊俊 教授

中世の秩序と法・慣習：混沌の時代を生きるためのルール

松園潤一郎, 他 (編著)

ISBN 9784864035767 戎光祥出版 2025年5月

学生委員の活動紹介

本学附属図書館は、2019年度より「図書館部門」と「美術館部門」の二部門体制になっています。それぞれの部門の運営に学生委員(※)が参画し、図書館や美術館を本学学生や教職員、地域の皆様にとってより魅力あふれる場所に変えるべく、様々な活動を行っています。

図書館部門の活動紹介

今年度は3名の学生委員が図書館運営に参画し、月に1回開催される「図書館部門会議」に参加したり、イベントの企画・運営を行ったりする等、様々な活動を行いました。今回は学生委員の皆さんが関わった企画についてご紹介します。

▶ 企画展示「この本の正しいタイトルは何？」を開催しました

昨年12月より図書館1階にて、学生委員による企画展示「この本の正しいタイトルは何？」を開催しています。本の正確なタイトルを失念し、読みたい本をうまく探すことができない図書館利用者が、問い合わせの際に図書館職員に伝えたい覚えの奇妙なタイトルをまとめた1冊『100万回死んだねこ：覚え違いタイトル集』（福井県立図書館編、講談社、2021年）から着想を得て企画された本企画展示は、何度も繰り返し訪れたいくなる不思議な魅力に満ちています。

本企画展示では、『100万回死んだねこ：覚え違いタイトル集』に掲載されている「覚え違いタイトル」の中から学生委員が厳選したタイトルを、そのタイトルの元になった図書の現物と一緒に展示しています。企画開催の実現に向け、学生委員3名で展示方法やポスターデザイン等について事前の打ち合わせを複数回行った他、より良い企画にするために図書館部門会議等でも意見を募り、創意工夫を重ねました。本の内容ではなく、タイトルにフォーカスした斬新な企画の魅力をより広く伝えるため、学生委員が工夫を凝らして作りあげた企画展示コーナーをぜひ一度ご覧ください。



学生委員からのコメント

私が「この本の正しいタイトルは何？」の企画を発案したきっかけは、高校生の時に読んだ本のタイトルの覚え間違い集が印象に残っていたからだ。この面白さを他の人と共有したい、また、普段本を読まない人が本を読むきっかけにしてほしいと思い、提案した。自分のアイデアがチームの協力のおかげで形になっていくのは嬉しかったし、展示の仕方などにもこだわることができて、有意義な経験になったと感じる。
(国際教養学科1年 楠 朝香さん)

▶ ワークショップ「オリジナルブックカバー&しおりをつくろう！」を開催しました

今年1月に、図書館1階 ラーニング・コモンズにて「オリジナルブックカバー&しおりをつくろう！」と題するイベントを開催しました。英字新聞や包装紙、マスキングテープや折り紙等を用いて、それぞれの個性を生かしたブックカバーやしおりを作成する本イベントは、事前準備やポスター作成、当日の会場運営等を学生委員3名で担い、参加した学生と一緒に和気あいあいとした雰囲気の中で開催されました。

本イベントには、デジタル機器に囲まれ、紙離れが進んでいる昨今にあって、紙を愛して止まない学生の皆さんに多数お集まりいただきました。今後図書館の蔵書をご利用になる際に、本イベントで作成したオリジナルのブックカバーやしおりをぜひご活用ください。



学生委員からのコメント

昨年度のワークショップ企画が好評で多くの人が楽しんでくれたと聞いていたので、今年度も何か手を動かす企画をしたいと思い「ブックカバーとしおりのワークショップ企画」を発案した。形にするのはたいへんだったが、図書館部門学生委員全員で意見を出し合い、協力する形が整っていたことで今年度はとても動きやすかった。来年度以降もいろいろな人と協力して企画を作る経験を積んでいきたいと思った。
(国際教養学科2年 室園 雪衣さん)



学生委員からのコメント

企画展示を通して、本に親しみを持ってもらい図書館に行きたいと思ってもらえるように、学生委員でアイデアを出し合い、デザインや展示場所を工夫して形にしていたことが印象に残っている。準備段階では、先生方や職員の方にアドバイスいただき、自分たちだけでは気づけなかった視点を知って、学んだアイデアを取り入れながら、学生委員みんなで企画展示やワークショップをつくりあげることができて嬉しかった。
(国際教養学科4年 水上 真菜さん)



(※)「学生委員」とは？

本学の「学生委員」に選ばれた学生は、本学教職員で構成される学内の委員会等に参画することにより、組織運営やリーダーシップなど、社会で求められる実践的な知識を学んでいます。

美術館部門の活動紹介

今年度は1名の学生委員が美術館部門の活動に参画し、美術館のパンフレットを作成したり、かすみ祭にてワークショップを開催する等、様々な活動を行いました。今回は学生委員の皆さんが関わった企画等についてご紹介します。

▶ 美術館コレクション展の関連イベントの運営サポートを行いました

昨年7月17日に図書館1階のラーニング・コモンズにて開催された、美術館コレクション展「許山孝一 カリフォルニアの丘」の関連トークイベント「許山孝一の生きたアメリカ」にて、運営サポートを行いました。学内外からお越しいただいた参加者の皆様へ、資料の配布や座席案内等の対応を行った他、イベントが支障なく進行するよう、運営スタッフとして事前準備からイベント終了まで様々な対応を行いました。

今回対応を行った学生委員は、学生1名での対応であったため多少不安を感じる場面もあったようですが、美術館職員と連携して特にトラブル等なくイベントを終えることができ、大きな充実感を得ることができたようです。また運営サポート業務の合間に本イベントを視聴し、許山孝一氏の作品についての理解を深めたことで、美術館コレクション展「許山孝一 カリフォルニアの丘」を新たな視点で鑑賞することができるようになったそうです。本イベントの詳細は、p.4「ラーニング・コモンズNEWS」にも掲載されていますので、ぜひご一読ください。



▶ 美術館のパンフレットを作成しました

学内外の皆様へ本学美術館をより楽しんでいただくため、新たに美術館のパンフレットを作成しました。昨年8月のオープンキャンパスの日程に合わせて作成された本パンフレットは、オープンキャンパス参加者にも配布し、多くの方から好評を得ることができました。

美術館部門長や美術館職員と連携し、パンフレットの構成から印刷作業に至るまで、すべての工程に関わった学生委員は、パンフレット作成の難しさを強く実感するとともに、完成時には大きな達成感を得ることができたようです。常設展示の展示場所を示すマップを中心に、美術館に関する情報を分かりやすく配置したり、パンフレットの表紙デザインに柔らかな印象を与える暖色系のカラーを使用する等、本パンフレットには学生委員の創意工夫が詰め込まれています。パンフレットは美術館の入口付近に置かれていますので、美術館にお越しの際はぜひご一読ください。



▶ かすみ祭にてワークショップを開催しました

2025年10月に開催されたかすみ祭にて、「フォトフレームデコレーションのワークショップ」を開催しました。リボンや造花、木の実等の様々な素材を用いて無地のフォトフレームを飾り付け、オリジナルのフォトフレームを作るワークショップを、2日間のかすみ祭開催期間中、1日に2回ずつ開催し、多くの方にご参加いただくことができました。

学生委員は、フォトフレームを飾り付ける素材の選定や、その他の事前準備、会場設営等の様々な工程を経て、当日のワークショップの運営に主体的に関わりました。イベント当日、参加者が楽しみながらフォトフレームを飾りつけている様子を見て、大きな充実感、達成感を感じることができたようです。



学生委員からのコメント

今年度は学生委員として主に一人で活動し、一つ一つの活動に自分なりに向き合えた。チームで活動する時とは違い、単独で判断する場面が多く、心理的負担を感じることもあったが、周囲に相談し、共有することで不安が軽減され、前向きに活動できた。この経験から、自身の力を発揮し続けるためには協働が重要であり、チームで取り組むことの意義を改めて学んだ。

(国際教養学科3年 渡邊 璃乃さん)



10周年を超えて、初心に立ち返るLanguage Cafe

ラーニング・commons コーディネーター 金光 真美

“ランチタイムにお弁当を持ち寄り、リーダーを含むサポーターを中心とした学生が主導し、語学学習や文化交流をする”というランゲージ・カフェの活動も、昨年度までに10年の継続を果たしたことで、本年度は初心にかえって、安定した運営を目指した一年となりました。一方で、カフェはかねてより、学生たちの自発的な想いから、新たなカフェを起こすことも良し、しばし休憩するも良し、としていますので、今年はそういった動きも見られました。

結果として、英語・中国語・韓国語・独語・仏語・スペイン語・日本語と、新たに発生したアラビア語や、前期のみの活動となったインドカフェの計9チームが活動し、通年でのランチタイムカフェ開催回数は、総計で126回に及びました。

中でも、日本語カフェが、細々とではありますが、定期開催にこぎつけたことは、カフェ創設時からの宿題の一つ果たせた、という意味で大切な小さな一歩になったと感じています。

また例年の、新歓・ハロウィン・クリスマスといったイベント以外では、7月12日(土)に開催した“各国料理クッキング&交流”が、本年度を代表する大きなイベントでした。このイベントは、長い間開催要望の声があがっていたもので、今回はリーダーたちの熱意で、ついに実現しました。キッチンが二つあるモデルルームを借りて、トッポギ、タパン&フムス、春巻きなど、各カフェが担当して国際色豊かな料理が並びました。買い出しから片付けまで協力して進める中で、学年を超えた和やかな交流も生まれ、教職員を含めた約30名の参加者が楽しく過ごせた、ランゲージ・カフェならではのイベントとなりました。

カフェサポーターは、本年度もまた、お互いの役に立ちたいという良い心根を持った学生たちが集まってくれていました。そういった先輩がいる中で過ごすことで、また後輩がその精神を受け継いでいく、という素晴らしい伝統が紡がれていると感じています。

時に、他の活動のためにカフェ活動がお留守になることがあっても、軸足をここに置いておいてくれる学生もいて、ふらりとイベントの折に現れて協力してくれたり、留学を終えたから、と戻ってきて再度活躍してくれる学生がいたり…ランゲージ・カフェは、学生や卒業生にとって、“わが家”のようにつきも温かく、自由に出入りできる場所であり続けますようにと願っています。

(※)これまでの10年間は、リーダーの名前を写真のように額におさめてきましたが、今後は、この紙面に名前を残していきたいと思えます。

2025年度リーダー

総合リーダー	山下歌琳	上村碧依
英語	山北杏璃	平野愛
中国語	藤野華名	井上叶羽
韓国語	松和奏	藤井響
フランス語	江藤由美子	
ドイツ語	Franziska Christine Oleksik	西迫萌
スペイン語	山下歌琳	
日本語	櫻木花穂	
アラビア語	江藤由美子	
インド	宮崎珠実	



2025年7月12日開催
“各国料理クッキング&交流”



2026年1月20日開催
ランゲージ・カフェ修了式後の交流タイム



2025年度リーダー
(1月20日ランゲージ・カフェ修了式にて)



リーダー名を記した銘板

附属図書館の1年 ~2025年度に図書館・美術館にて実施した取り組みを紹介します~

- 4月
 - ・美術館にて春の企画展「松室加世子」展がスタート。
 - ・研究棟1Fの多目的演習スペースにて「Language Cafe」の新款イベントを開催。
 - ・ファーストイヤー・ゼミの環として、新入生を対象とする図書館ツアーを複数回開催。
- 5月
 - ・「Language Cafe」の各カフェの活動がスタート。また活動の一環として「会話特化型カフェ」(英語・韓国語・中国語)の活動がスタート。
 - ・「生涯学習カレッジ開講式」にて、美術館「松室加世子」展に関する講演会を開催。
- 6月
 - ・企画展示「21世紀の100冊」が、図書館1F BBCコーナー側にてスタート。
 - ・図書館1F ラーニング・commonsにて、自主制作ドキュメンタリー「Legacy — 宗像の女性たち」の上映イベントを開催。
 - ・美術館にてコレクション展「許山孝一 カリフォルニアの丘」がスタート。
- 7月
 - ・企画展示「アメリカ文学の扉をたたく」が、図書館1F円型書架にてスタート。
 - ・学外会場にて、Language Cafe企画「各国料理クッキング&交流」イベントを開催。
 - ・図書館1F ラーニング・commonsにて、「ZINEを作ろうワークショップ」を開催。
 - ・図書館1F ラーニング・commonsにて、美術館コレクション展の関連トークイベント「許山孝一の生きたアメリカ」を開催。
 - ・オンライン図書館ガイダンスを開催。
- 8月
 - ・オープンキャンパスにて、1,000名を超える参加者に図書館をご見学いただく。また図書館1F ラーニング・commonsにて、模擬Language Cafeを複数回開催。
 - ・キャンパス見学&相談会にて、400名程の参加者に図書館をご見学いただく。
 - ・ラーニング・commons企画として 第1回、第2回、第3回「TOEIC講座Ⅰ」を開催。
- 10月
 - ・美術館にてストット教授によるネイチャーフォト展「Nature Around Us」がスタート。
 - ・ラーニング・commons企画として、学生参加型プロジェクト「俳句/HAIKUでつながろう」がスタート。
 - ・図書館1F ラーニング・commonsにて、美術館ネイチャーフォト展の関連トークイベントを開催。
 - ・研究棟1F 多目的演習スペースにて、Language Cafe企画としてハロウィンパーティーを開催。

- ・かすみ祭にて、美術館部門学生委員によるワークショップを開催。
- ・図書館2階にて、KBCTドラマの撮影が行われる。
- 11月
 - ・11月27日の読売新聞朝刊「知の館」(全国の大学図書館特集する企画)に、本学図書館の特集記事が掲載される。
 - ・学生参加型プロジェクト「俳句/HAIKUでつながろう」の一環としてLL教室にて、英語ミニレクチャーを開催。
 - ・図書館1F ラーニング・commonsにて、女性リーダーシップセンター主催の「女性トップリーダー育成研修」(3日間の研修の一部)を開催。
 - ・企画展示「はじめての俳句づくり~五・七・五の世界へ~」が、図書館1F BBCコーナー側にてスタート。
- 12月
 - ・美術館にてコレクション展2「彩の回廊」がスタート。
 - ・ラーニング・commons企画として講義棟にて、夏井いつき氏による句会ライブを開催。
 - ・図書館1F BBCコーナーにて、ラーニング・commons企画「図書館に行こう!ホリデーシーズンイベント」を開催。
 - ・図書館蔵書点検の一部実施。
 - ・研究棟1F 多目的演習スペースにて、Language Cafe企画としてクリスマスイベントを開催。
 - ・図書館部門学生委員による企画展示「この本の正しいタイトルは何?」が、図書館1F BBCコーナー側にてスタート。
- 1月
 - ・「学生・図書館懇談会」を開催。
 - ・図書館1Fラーニング・commonsにて、図書館部門学生委員企画「オリジナルブックカバー&しおりをつくらう」を開催。
 - ・研究棟1F 多目的演習スペースにて、「Language Cafe」の修了式を開催。
- 2月
 - ・研究室等の蔵書点検を実施。
 - ・ラーニング・commons企画「TOEIC講座Ⅱ」第1回、第2回を開催。
- 3月
 - ・ラーニング・commons企画「TOEIC講座Ⅱ」第3回を開催。



福岡女子大学附属図書館ニュース

編集発行：福岡女子大学附属図書館

福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号

TEL&FAX：092-661-2416 ホームページ：http://www.fwu.ac.jp/lib/